



平成20年版消防白書について

平成20年版消防白書が、平成20年12月16日の閣議報告を経て公表されました。ここでは、「特集」、「トピックス」を中心に、白書のポイントを紹介し、白書全文については、消防庁ホームページでご覧になれます。

◆特集 地域総合防災力の強化～消防と住民が連携した活動の重要性～

地震や集中豪雨等の自然災害の頻発や、東海地震等の大規模地震の切迫性の指摘などにより、国民の安心・安全に寄せる関心は極めて高く、消防防災体制の充実強化は、国、地方を通じた最重要課題の一つとなっている。

そのために、地域防災の中核的存在である消防団の充実強化が重要課題で、消防団協力事業所表示制度や機能別団員・分団制度などにより消防団員の確保を進める。また、婦人防火クラブ・少年消防クラブなどによる自主防災組織などの活動の支援もおこなっている。

住宅用火災警報器の速やかな普及に向けた取組に関しても、平成18年6月から義務化された新築住宅に続き平成23年6月の義務化の全国拡大に向けて、地域住民組織（自治会・婦人会等）による取組、地域事業者（地域に根ざした事業者）による取組、地域力を活かした取組などにより住警器の普及が加速されることが期待される。

◆トピックスⅠ 大規模災害に備える

平成7年の阪神・淡路大震災以降、緊急消防援助隊が創設され、同年の消防組織法の改正により広域応援体制の充実が図られた。平成15年、消防組織法の改正により緊急消防援助隊が法制化された。平成20年、大規模建築物等における防災管理体制を強化するための消防法の改正が行われるなど、法令の整備が図られてきたが、この間、防災拠点となる公共施設の耐震化を促進するための環境整備や災害時における消防と医療の連携の推進等の種々の地震対策もすすめられた。平成20年度、「消防法及び消防組織法の一部を改正する法律」同年8月27日に施行され、行政機関による危険物流出等の事故の原因調査体制の整備とともに、災害時に全国規模で消防応援を行う緊急消防援助隊の機動力の強化が図られている。また、住民に情報を伝達するための全国瞬時警報システム（J-ALERT）及び住民の安否情報の収集・提供のための安否情報システムの活用や、事業所の自衛消防力の確保を促進することによる防災力の強化を図るための取組なども進められている。

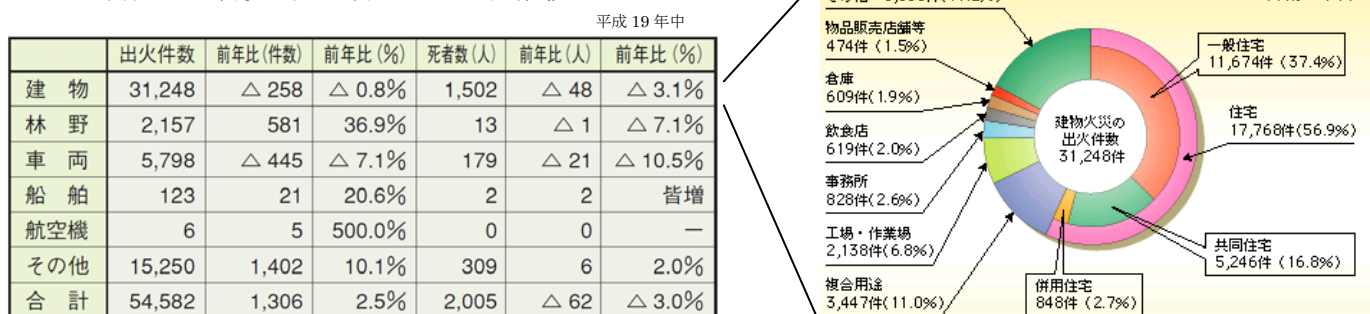
◆トピックスⅡ 市町村の消防の広域化

災害の大規模化、住民ニーズの多様化等、近年の消防を取り巻く環境の急速な変化に的確に対応するため、平成18年6月に市町村の消防の広域化を推進するための消防組織法の改正が行われ、消防庁では、平成18年7月に「市町村の消防の広域化に関する基本指針」を定めるとともに、消防庁長官を本部長とする消防広域化推進本部を設置し、市町村の消防の広域化に取り組んでいる。広域化が実現することにより、①住民サービスの向上、②人員配備の効率化と充実、③消防体制の基盤の強化等の効果が期待されるが、消防庁では、広域化対象市町村において、これらのメリットを踏まえ、広域化の実現に向けた積極的な検討が行われるよう、引き続きその推進に取り組むこととしている。

◆トピックスⅢ 消防と医療の連携の推進（内容省略）

◆トピックスⅣ 中国四川省大地震災害における国際消防救助隊の活動について（内容省略）

＜平成20年版消防白書の主な統計数値＞



出火件数、焼損棟数、建物焼損床面積、損害額は増加。死者数、負傷者数、り災世帯数、り災人員は減少。1日当たり150件の火災が発生。主な出火原因 1位放火 2位こんろ 3位たばこ 4位放火の疑い 放火及び放火の疑いは、1万1,142件（全出火件数の20.4%）「放火」による火災が11年連続して第1位となっている。

建物火災の出火件数は昭和36年以降で最少。最多となる昭和48年（4万2,551件）の73.4%。建物火災の56.9%が住宅火災。

火災による死者の状況、1日当たりの火災による死者数は5.5人。住宅火災による死者数（放火自殺者等を除く。）は平成15年以降5年連続して1千人を超えている（平成19年中1,148人）。住宅火災による死者数（放火自殺者等を除く。）のうち65歳以上の高齢者（684人）は59.6%と極めて高い。火災による死者は冬季と就寝時間帯に多く、死因は火傷が45.5%、一酸化炭素中毒・窒息が42.9%

平成 21 年春季全国火災予防運動

H21 年 3 月 1 日～3 月 7 日

平成 21 年 3 月 1 日 (日) から 7 日 (土) までの 7 日間、平成 21 年春季全国火災予防運動が実施されます。平成 20 年度全国統一防火標語『火のしまつ 君がしなくて 誰がする』です。消防庁は、下記を重点目標としています。

(1) 住宅防火対策の推進 (2) 放火火災・連続放火火災防止対策の推進 (3) 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底 (4) 製品火災の発生防止に向けた取組みの推進 (5) 林野火災予防対策の推進

畜圧式 ABC 粉末消火器モデルチェンジ 廉価型畜圧式 ABC 粉末消火器 50 型発売のご案内

◆畜圧式 ABC 粉末消火器 10 型 SPC-10X II

この度、「SPC-10X」のモデルチェンジを行うこととなりました。ホーンキャップを面ファスナー (マジックテープ) の採用により取り外しやすくシンプルに変更致しました。また、バルブケース、ノズルの変更等により総質量を軽くし、輸送時に係る CO2 排出量を削減しております。

「ECO」、「UD」、「QUALITY」を具現化した EUQ マーク (ユークマーク) を、銘板に採用。

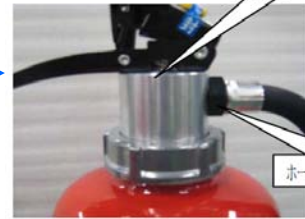
変更時期は、平成 21 年 3 月より。標準価格は変更ありません。



旧 SPC-10X

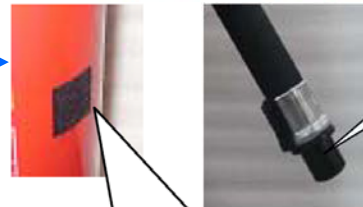


新 SPC-10X II



バルブケースの変更

ホース元金具の変更



ノズルの変更

面ファスナー(マジックテープ)に変更



◆廉価型畜圧式 ABC 粉末消火器 50 型 DPC-50X 新発売

畜圧式の 50 型は、現在ステンレス製を発売しておりますが更にお求めやすい鋼板製の商品を発売することとなりました。発売時期 平成 21 年 3 月より
大型消火器でありながら畜圧式の良さ(①二酸化炭素ではなく窒素ガスを圧力源にしています。②圧力ゲージで簡単チェック③万が一容器の腐食等で亀裂などが入った場合、蓄圧しているガスが抜け使用不能になるので破裂事故を防ぎます。④ストップ付き。)を備え価格を抑えた商品です。



『春、匂う』